

「創造性×高校生」で新しい学びを推進！
東北芸術工科大学と山形県立山形北高校が連携協定締結
12月23日(木)10時30分より締結式と記者発表

東北芸術工科大学(学長・中山ダイスケ)と山形県立山形北高等学校(校長・海和雅人)は、山形北高独自の探究型学習の推進と強化のための教育連携協定を締結いたします。

令和4年度より、全国の高等学校で「総合的な探究の時間」が本格スタートすることに伴い、山形北高校が独自の探究型学習カリキュラムを運営するにあたり、両者が協力体制を構築する運びとなりました。本学から同校へ教員を派遣し、探究型学習で重視される「課題発見・解決力」に必要な姿勢・プロセス・スキルを、同校生徒が学ぶための講義や体験授業を行うほか、本学のプログラム開発に山形北高校が参画するなど、相互協力の体制となります。締結式では、両者代表が連携の経緯や展望をお話します。ぜひ、取材いただきますようお願いいたします。

■連携協定締結式／記者発表会

日時：2021年12月23日(木)10:30～11:15

場所：東北芸術工科大学(山形市上桜田3-4-5)本館6階 第一会議室

内容：連携協定の概要説明、両者代表あいさつ、調印、質疑応答

山形北高「Nashitenal」× 芸工大の創造性教育

- 山形北高校では、独自の探究学習カリキュラム「Nashitenal(ナシテナル)」を平成30年から実施しており、「地域の社会と文化を支える人材に」を目標に、生徒自ら課題を発見し、調査や検証を繰り返しながら解決策を提案する活動を通して、探究的な姿勢やスキルを習得しています。
- 東北芸術工科大学では、開学以来「2つのソウゾウリョク(想像力・創造力)」と「デザイン思考」を教育の軸に、社会が抱える様々な課題を見出し、新しい発想で解決できる若者を育ててきました。これらの力は、探究型学習を通して育む力と大きく重なりと捉えています。

本学が得意とする創造的な学びのノウハウを、山形北高校の探究的な学びに活かすことで、同校生徒が「いかに自分らしい視点で課題を切り取り、かつ自由な発想で取り組み、他者と協働で解決に導くか」という探究的な能力を身につけ、「地域の社会と文化を支える人材」となることを目指します。



「新しい学習様式」への転換期。令和4年度に高校で全面实施。

全国の高等学校では、学習指導要領の改訂により、令和4年度から「総合的な探究の時間」が全面实施されます。「総合的な探究の時間」の実施においては、

- 子供たちが様々な変化に積極的に向き合い他者と協働して課題を解決していくこと
 - 様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと
 - 複雑な状況変化の中で目的を再構築すること
- などの力の育成する、新しい学習様式への転換が求められています。

東北芸術工科大学の中高大協働プロジェクト

本学では、各教育現場との協働を通じた探究型学習の推進に向けて、以下を実践しています。

●教育機関と連携したカリキュラム実践

本学の創造性教育のノウハウを活かし、主に山形県内の教育機関と協働して各校独自の「探究型学習」の実践に向けた授業連携を行っています。

- ・山形県立東桜学館中学校（平成28年度より連携授業を実施）※山形県教育委員会との連携協定による
- ・山形県立山形東高等学校（平成29年度 教育連携協定締結）
- ・山形県立山形西高等学校（平成30年度 教育連携協定締結）

●全国の教員を対象とした研究大会・研修会の開催

教育現場で導入が進む「主体的・対話的で深い学び」や「探究型学習」、これらの新しい学びが「何のために」あるのか、その本質や時代に沿った学びの形を考える「探究型学習研究大会」を定期開催しています。

●探究成果発表の場としての「デザセン」開催

全国高等学校デザイン選手権大会。通称「デザセン」。知識集積型の勉強だけではなく、コトの本質に目をむけて自ら解決方法を提案できる教育的実験の場として1994年に始まりました。全国の高校生が、デザイン思考の課題発見・解決のプロセスを使った学習プロセスや企画書フォーマットを活用し、より豊かな社会を創るための「提案」を行います。高校での探究型学習の成果をアウトプットする場であり、実際にプレゼンを披露する決勝大会はオンラインで全国に生配信されるため、広く社会へ課題提案をする機会でもあります。

【本件に関するお問い合わせ先】

東北芸術工科大学 地域連携推進課（担当：伊藤）

TEL：023-627-2218 / ito.michiko@aga.tuad.ac.jp